



東京多摩プロバスニュース

第 58 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2015. 1. 7

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

多摩の地域文化を育てよう

第 125 回 定例会

日 時 : 平成 26 年 11 月 5 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 27 名(会員数 35 名)

第 126 回 定例会

日 時 : 平成 26 年 12 月 3 日(水)午前 12 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 28 名(会員数 35 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

年頭に当たって

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。毎年元旦には除夜の鐘の音とともに小野神社と高幡不動尊にお参りに行きましたが、今年は寒さの中、無理をせずに休みました。

さて、昨年はプロバスライフを大いに楽しみました。前半は創立 10 周年を迎え、会員全員の協力の下に無事終了することができ、東京多摩プロバスクラブの名前が少しずつ評価されてきました。その一つは、多摩プロバスかるたの製作です。多摩市の美しい自然・環境、市内の歴史ある名所を取り上げて若い人からお年寄りまで市民の共感を呼んでいます。また、日本の伝統的文化である、茶道、江戸しぐさ、古典舞踊、貝合わせの絵と遊びなどの先生として活躍されている会員の他、絵画、写真、音楽、学校教育等趣味を生かした活躍がありました。

昨年末に開催された全日本プロバスクラブ協議会横濱大会での式典・交流会では北海道から九州まで 30 クラブの会員が集い和気あいの雰囲気でした。勉強になりました。「継続は力なり」東京多摩ロータリークラブ主催による市内中学

副会長 神谷真一



生俳句大会の作品が、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター 5 階連絡ブリッジギャラリーに展示されます。この俳句大会は、10 年間にも及ぶ多摩ロータリークラブの方々の活動と努力の賜であり心から敬意を表します。同時に我々のクラブがこの俳句大会で俳句選考などのお手伝いできたこと、多摩市が進めている ESD 活動にも協力していることに嬉しさを感じます。

高齢化が進む中ですが、今年も自分の体に優しく、健康に注意しながら、家族と共に東京多摩プロバスクラブの人たちと仲良く楽しみたいと思います。



多摩市関戸公民館から望む富士山

1. 幹事報告

西村政晃幹事

1.1. 第6回全日本プロバス協議会総会、横浜で開催

平成26年11月23日(火)、横浜で総会が開催され、旭川から鹿児島まで30クラブ、224名が参加し盛大に執り行われた。当クラブも山田正司会長以下9名が参加。

総会で役員を選任が行われ新会長に中村寛氏(横濱プロバス倶楽部会長)が選任された。当クラブの中村昭夫会長は会計監査に選ばれ就任した。



全日本プロバス協議会 2014 年度総会

1.2. 第10回多摩市中学生俳句大会表彰式

平成26年12月13日(土)、永山ペルブホールにおいて東京多摩ロータリークラブ、多摩市教育委員会共催の中学生俳句大会の表彰式が執り行われた。

10回目という節目の今大会には10校、2,574句の応募があり、佳作も含め277句が入選。審査委員長賞、多摩市長賞、東京多摩ロータリークラブ会長賞等をはじめ次々と表彰が行われた。

当クラブからは山田正司会長・西村政晃幹事、倉賀野武士総務委員長が出席、東京多摩プロバスクラブ賞(5名)を授与した。



第10回多摩市中学生俳句大会表彰式

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

倉賀野武士委員長

1) 総務委員会の役割分担を若干見直した。神谷真一副会長が兼務として応援して頂けることとなった。

2) 11月度定例会(11月5日)

阿部裕行多摩市長をお招きし「『健幸都市』多摩をめざして」の講話を実施した。 関連記事P3 参照

3) 12月度定例会(12月3日)

増山敏夫会員による卓話「俊乗坊重源の鎌倉東大寺再建」を実施した。 関連記事P2、3 参照

4) 1月の定例会は全員参加による「多摩プロバスかるた」大会を予定している。

2.2. 研修・親睦委員会

鈴木達夫委員長

1) 11月12日(水) 多摩六都科学館見学会

プラネタリウムで大型映像「はやぶさ2の挑戦」「富士の星暦」の映像美を堪能した。参加者15名。関連記事P4 参照



研修・親睦
委員会の
皆さん

2) 忘年会

12月3日(水) 恒例の忘年会を京王クラブにて36名の参加を得て盛会裡に開催。多摩ロータリークラブ、八王子プロバスクラブ、日野プロバスクラブから計9名のお客様がお見えになり楽しいひと時を過ごした。

関連記事P4 参照

2.3. 地域奉仕委員会

森川静子委員長

1) 「多摩プロバスかるた」の普及活動

地域奉仕委員会の活動の一環としてかるたプロジェクトに協力し引き続き推進を図る。

2) 「ふれあい・いきいきサロン通信」多摩市社会福祉協議会発行に多摩プロバスクラブの紹介記事が掲載される。

①11月26日 多摩市社会福祉協議会地域福祉推進課と掲載記事内容の打合せ

②12月9日 第35号「ふれあい・いきいきサロン通信」が発行され、「サロン活動にいかがですか」「様々な特技を持っています」の表題で内容が付け加えられ、多摩プロバスクラブが紹介された。

2.4. 広報委員会

稲田興委員長

1) プロバスニュース第58号(1月7日発行)の編集会議を

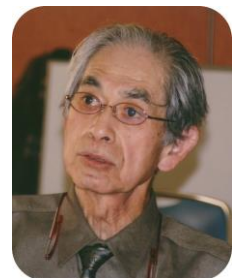
11月25日に実施。編集計画を同日午後の理事会で説明。12月3日の定例会で原稿執筆依頼。12月22、26日の編集会議を経て、最終校正を実施。

2) ホームページは、プロバスニュース第57号の内容等を反映させ、11月21日に更新公開中。

南無阿弥陀仏・俊乗坊重源

増山敏夫会員

平氏の放火により焼失した東大寺再建の立役者。坊号を俊乗、南無阿弥陀仏と号し、浄土僧。1120年生れ、13歳で出家。東寺、園城寺、延暦寺と並ぶ大寺醍醐寺に。密教を学び、「五明」5科目の内、建築・土木に関わる「工功明(ギョウキョウ)」に秀で、次第に作寺僧として頭角を現していく。やがて醍醐寺の氏長者・村上氏に認められ、供養堂の建築を任される。44歳で醍醐寺を出、彼の行動の原点・勸進聖育成の最初の念仏堂「別所」を高野山に開く。



◆◆◆ 卓 話(つづき) ◆◆◆

47歳渡宋、具法の傍ら大陸建築を作寺僧の目で見聞したに違いない。こうして重源は東大寺焼失の日を高野山で迎える。国の寺・東大寺再建は国家財政の疲弊で覚束ない儘1年が経ち、ようやく造東大寺大勧進職に任命される。重源61歳。

財源を如何に。「足裏で考える！」行動の人重源は、行動を共にする勧進聖「同行」を組織して日本中を歩き、賤民から貴族、将軍まで、身分を問わず「御仏との結縁(ケヱ)勧進奉加」という方法で財源づくりに成功する。交渉事も上手く、征夷大將軍・頼朝に大木を伐り出す杣山として、周防を東大寺の知行国にと直訴する。

大仏殿は天平創建の大きさに拘り礎石は其の儘。しかしこの大建築は創建時から構造的欠陥があった。地震や台風で揺れ、添え柱と外周に裳腰を付けた補強で凌いでいた。醍醐寺時代と宋建築見聞の経験から(?)これまでの和様

では解決できないと、長く太い柱を梁で縦横：に結ぶ新様式・天竺様を考案する。この為、周防の杣山から大材を河川→海→河川と廻航させる土木的スケールの運材計画を立てる。この事業を動かす拠点として数ヶ所の新別所を造る。

その一つ、播磨別所(浄土寺浄土堂・国宝)が小野市に遺る。大建築を短期間に造る為、材の形状、寸法の種類を減らし、統一化を図る、大工の能力に応じた組織化も行い、現代と変わらぬセンスの持ち主だった。南大門(遺構・国宝)他、大建築の資金集めを含め、僅か20年で実現。あのレオナルド・ダ・ヴィンチに匹敵する万能の天才だった。

東大寺二月堂で行われる「お水取り」、奈良時代から東大寺に貢献した人々の名が読上げられる・・・造東大寺大勧進・大和尚南無阿弥陀仏の名も、造営大施主・源頼朝の名と共に・・・1206年入滅、86歳。その坐像(国宝)は、彼が重用した仏師快慶により東大寺に遺されている。

◆◆◆ 講 話 ◆◆◆

平成26年11月5日、第125回定例会において「健幸都市多摩をめざして」と題して阿部市長に講話をいただきました。以下その要旨を記述します。冒頭、当クラブのESDプログラムへの協力、多摩かるたの作成、多摩市中学生俳句大会選考への協力等、ふるさと多摩を大事にしている活動に対して謝意を述べられた。

続いて予め用意された2つの資料 ☆多摩市の特性 ☆誰もが幸せを実感できるまち！健幸長寿都市取り組みと多摩市版地域包括ケアシステム・現在のイメージ(案)を基に講演をされました。 文責 倉賀野武士総務委員長

健幸都市・多摩をめざして 多摩市長 阿部裕行 ◆進む多摩ニュータウンの再生

多摩ニュータウンは初期入居後40年が経ち、①団塊の世代が一斉入居したことにより、平成23年に高齢化率が20%を超え26年9月には25%を超えるなど急速な高齢化、②建物や道路、橋梁などの都市インフラ施設の老朽化が顕在化している中、「プリリア多摩ニュータウン」は再開発の成功例として



全国から注目を集めている。子育て世代が増え、子どもたちの歓声が響く街へ大変身した。来年2月にはニュータウン再生プロジェクトシンポジウム第2弾を開催。待機児対策もさらに進め、子育てしやすいまち、多摩をめざす。

◆多摩市の健康寿命 男女とも26市で第一位

健康寿命は、男性83.16歳、女性85.95歳と男女とも都内26市で1位。本年も「市長の100歳長寿訪問」を行ったが、41人が対象で、うち男性は8人。お一人暮らしの方もおられる。私は健幸都市(スマートウェルネスシティ)・多摩の創造を掲げているが、誰もが幸せを実感できる街を目指していきたい。

特にニュータウンは丘陵地帯を造成したこともあり、坂や段差の多い街だが、近隣センターなどのスーパーの撤退についても、京王やイトヨーカドーなどの移動販売により、外出や買い物をする喜びを感じられる街としてきた。歩くことを大切に、体を動かすこと、さらには、地域貢献、

社会貢献など、多くの人から頼りにされるシルバーエイジの皆さんであることが、健幸長寿な街づくりにつながる。

◆多摩市版地域包括ケアへの取り組み

現行の「地域包括ケア」は介護保険の枠組みだが、さらに一歩進め、障害をお持ちの方も対象とし、子どもから高齢者まで誰もが「幸せ」を実感できる「多摩市版地域包括ケア」を目指していきたい。在宅で「老い」を迎えていくためには、医療・介護や生活支援の仕組みづくりが必要。

特に24時間の見守り体制には、地元医師会や訪問看護体制も急務となる。幸いに市内には地域医療で先鞭をつけている天本医院や田村クリニックもあるため、連携体制を強めていく。社会参加・就労、生活支援・介護予防、そして医療・介護など、健幸長寿都市・多摩を支えるのが「多摩市版地域包括ケアシステム」の姿である。

◇質疑・意見交換では、「多摩の魅力発信に力を入れてほしい」「上ノ根大通りの紅葉の素晴らしさ、乞田川の桜並木など景観資源をアピールすべき」「公共施設の見直しは理解できるが地域の図書館は残してほしい」「高齢者が生きがいを感じられる街づくりを」「高齢化する市民活動への支援を求めたい」などの意見もあり、市長からは「せいせき多摩川花火大会は再来年には聖蹟桜ヶ丘の活性化を第一に再開したい」「多摩ニュータウンの再生は尾根幹線整備や都営住宅の建て替えにより土地利用変更も行い、職住近接の街を目指したい」「東京オリンピックでは、市内に海外のチームがキャンプできるよう誘致していきたい」などのお応えもあり、クラブ会員との有意義な時間となった。

◇◇◇ 3 分間スピーチの要約 ◇◇◇

1. 江戸しぐさ(3 回目)

滝川道子会員

3 回目(11 月 5 日)は、「勿体ないから大事にしよう」: 江戸では短くなって「もったい大事」と使っていました。勿体と書いて態度、風格、品位を表します。物を大切にすることは、品位のある行動の第一歩でした。「あとひきしぐさ」: 誰かを見送る時にすぐに背を向けず姿が見えなくなるまで見届け、名残惜しい気持ちを表すことを心掛けました。今回の「もったい大事しぐさ」と「あとひきしぐさ」も現代に生かせる、残したいしぐさでしょうか。

2. 家庭菜園の勧め

西村政晃会員

1. 家庭菜園のための農地の確保(方法は次の二つ)
 - ①多摩市家庭菜園 20 m²(約 6 坪) 12,000 円/年
10 m²(約 3 坪) 6,000 円/年
 - ②農家から直接借りる家庭菜園→面積利用料金は色々
2. せつかくの家庭菜園 一楽しみを増やそうー
 - ①お気に入り作物選び(例 ヤーコン、空心菜)
 - ②無農薬、有機質中心の施肥→安全、健康的な野菜
(詳細は 12 月 3 日定例会で配布した資料を参照)

◇◇◇ 委員会・サークル活動 ◇◇◇

1. 多摩六都科学館を訪れて

鈴木泰弘会員

11 月 12 日に 1 億 4 千万個の星を映すというギネス級のプラネタリウムを見に行った。直径 27m の大ドームに LED 光源で投影された当日の星空に圧倒され、高精細 4 K の画質で見る四季折々の富士山の姿は臨場感たっぷりでした。それにも増して 2014 年最大の話題である「小惑星探査機はやぶさ 2 の挑戦」の映像にはその成功を祈らずにはいられません。太陽系の歴史と生命誕生の謎に迫るという使命を果たすべく、はやぶさ 2 の向かう先は地球と火星の近くを回る小惑星「1999JU3」だ。この星に着陸し地表に穴をあけて地下の岩や砂を持ち帰るといふ何とも壮大な計画ではないか。12 月のプロバスクラブ第 126 回定例会の開催直前に、H2A ロケットで打ち上げられ、今は順調に 52 億 km の旅を続けているという。そして地球への帰還は 6 年後の年末、そう東京オリンピックの年なのです。プロバスクラブ第 197 回定例会の頃か? さあ皆で元気に出迎えよう!



多摩六都科学館を訪れた皆さん

2. 恒例の忘年会

鈴木達夫研修・親睦委員長

去る 12 月 3 日(水)定例会後、京王クラブで恒例の忘年会を開催。東京多摩 RC から小林会長はじめ 4 名、八王子 PC から 4 名、日野 PC から 1 名の来賓を迎え、当クラブから 27 名の総勢 36 名。各来賓の代表者の挨拶と紹介をいただき乾杯!和洋折衷料理をいただきながら各クラブ



熱唱中の平田(右)・永島(左)両会員

と交流、1 年を振り返っての懇談で親睦を図れる良い機会となった。宴の盛り上りのころに自慢のカオオケが始まり、卒寿

となった同年同月同日生まれの平田哲郎・永島仁両会員が「加藤隼戦闘隊」を熱唱され、更に盛り上がった。最後に全員で肩を組み「プロバスとみちづれ」「星影のワルツ」を合唱し、相互の親睦を深めた。

3. 大山阿夫利神社「火祭薪能」吟行 増山敏夫会員

「からまつ」同人、大山能俳壇世話人・内籐雫子雄氏のお誘いで 10 月 7 日、筈句会から岡野一馬・滝川道子・西村政晃・蓮池守一・光枝夫妻の皆さんと私が参加した。

阿夫利神社能楽殿は谷間の山麓に、山嶽信仰の見上げるばかりのご神体・大山山塊の懐に抱かれるようにすっぽりと納まり、立つ崖を背に四本の柱に軽やかに支えられた檜皮の屋根が見事に、単純に象徴空間を造っていた。

薄暮の中、降神の儀が始まる。神官が前屈みになって地に息を吹き込む如く祝詞奏乗上、最後に「オー…」と声を上げて行く。何時もこの姿勢!何故と思ひ調べてみた。鍵は祝詞の出だしの言葉にあった。「此の所を厳に磐境(イハサカイ)と斎(イハイ)定めて招(オキ)奉る…」、神の御まし処は磐なのだ。

二つの水平線(屋根と床)の間に黒髪の巫女が神火を捧げ降る。そして「火起し」の煙が立ち上り、火が篝に移されてゆく。闇へ移行するに従って、篝火に屋根と床が浮かび上がる。間は黒々とした闇の緑。計算され尽くした神事だ。神官と能楽師の問答に始まる「独り翁」、能「清経」の篝に揺らぐばかりの小面、幽玄の世界に引き込まれていった。宿の夜は観能の余韻に浸り、差入れの銘酒に酔いしれました。



「独り翁」

薪能鳥天狗とともに座す	岡野 流馬
薪能袂に受けるあきの風	滝川 露江
錦木がいろどり添える大山能	西村 雲海
観能のたかぶり消えぬ夜半の秋	蓮池 秋霜
狂言のすり足遠くすがれ虫	蓮池 光花
降る火を捧げ黒髪秋の風	増山 胡桃子

1. 歌を楽しむサークル

瀬尾日出男会員

皆さんがよくご存知の曲を選び、斉唱して楽しく歌い、時にメロディーに低音・高音部のハーモニーをつけて二重奏で歌う練習も重ねています。

曲目は童謡・歌謡曲から外国曲にも及び練習を重ねて、時代を反映した歌、季節に応じた曲など、幅広く増やして練習し私達が楽しむだけでなく、一日も早く皆さんに聞かせられるように頑張っています。

12月にはクリスマスソングを歌い、家族の皆さんと共に楽しめるように、月に一度の機会を仲間と過ごしております。

2. 多摩市民文化祭について

堀内陽二会員

多摩市民文化祭は、多摩市と多摩市文化団体連合(略して文団連)の主催事業で、後援は公益財団法人多摩市文化振興財団と多摩市社会福祉協議会です。文化祭の実施に当たっては、市の委託を受け文団連の中に多摩市民文化祭実行委員会を立ち上げての進行です。文化祭参加団体が決まった段階で各参加団体から委員を出していただき、6月の第1回実行委員会から始まります。先ず委員長、副委員長をはじめ実施に当たっての役割分担を決め、キャッチフレーズ(今回のキャッチフレーズは「感動！そして笑顔！」)も決めました。そして委員会を重ねながらポスターやチラシやスケジュール表の作成などを手造りしました。10月17日より11月9日まで市内各所(関戸・永山公民館やパルテノン多摩など)でのホールやギャラリー、展示室や和室や茶室をお借りしてのお祭りとなりました。

プロバス会員でもある各流派のお茶の先生方がご活躍の多摩市茶道連盟ももちろん文化祭参加の行事としてのお茶会を催してくださいました。それから、私の関係する



子供囲碁大会の様子

多摩市囲碁連盟も多摩市囲碁大会及び子供囲碁大会を開催しました。このように30の団体がスケジュール通りに多彩な出演や出品をされました。

12月の最後の委員会での反省会を兼ねて文化祭のしめくくりを行ない、市に対しての事業報告と決算報告を行なって委員会を解散しました。

参加者数及び観客動員数は概算で13,000名という集計結果でした。かくして、多摩市の文化活動の振興に努めている文団連の理事長として20数日間にわたる祭りを無事滞りなく終えることができ、望外の喜びでした。

3. 文化祭に参加して

阪東照子会員

11月9日多摩茶道連盟による市民茶会を聖蹟桜ヶ丘のオーパ8階で催し、同日の文化祭に更なる華やかさを添えることになった。朝方は「時雨紅葉を洗う」の語の如き小雨が、昼には日射しの出る天候となり、お客様の出足も好調で、阿部市長、京王ギャラリーの手塚清和氏をはじめ、計200余名のお茶会入場者を迎え、終日賑わった。また良かったことは、いらした殆どの方が、濃茶・薄茶・煎茶の各席全部にお入りいただいたことだ。お客様も満足され、私共も安堵した。



市民茶会受付にて阪東(中)・小西(右)の両会員

因みに当クラブの菊池宣子・小西加葉子・森川静子・瀬尾日出男の各会員に阪東と5名が参加しており、前日からの周到な準備が当日、功を上げた結果となった。笑顔で退席されるお客様に接し、達成感を感じる好日となった。

心得えの有無し問わず和やかに

「又いらして…」と愛みて暮るる 浮草

4. 原生会絵画展に出展して

岡野一馬会員

巧拙は問わず、絵を描くことの好きな60歳以上の男性のみの集まりである。発足は多摩市となった頃で、50年近くになり、市では最も古い絵のグループである。

私は発足の少しあとから参加しているが、先輩諸兄が亡くなり、いつの間にか最長老と呼ばれる立場になっている。

絵画展は11月18日～25日の8日間、永山ギャラリーで行なわれ、会員が多士済々のため、油・水彩・日本画などで個性豊かな作品を発表していた。さすが、戦後日本の復興に貢献した連中で、作品にそれぞれの歴史と情熱を感じられた。プロバスからは、山田正司・鴻池敬和両会員と私が参加している。



出展した筆者の絵画「冬木立ち」



多摩と私 -その2-



「昭和三十年代」

森川静子会員

昭和 33 年 4 月、私は多摩小学校第一分校に入学した。当時多摩村には一つの小学校本校と二つの分校そして一つの中学校がありました。多摩小学校は現在市庁舎の在る場所に建っていたが、私の住む落合からは遠いため、乞田にあった第一分校に通った。生徒数は各学年一クラスで 20 数名、私はその分校でのんびり学んだ。つまりあくせくと勉強した記憶が無い。只良くお腹が空いた記憶がある。野山を男の子と一緒に駆けずり回っていたからであろう。その当時のおやつは母が良く“たらし焼”という現在でいうホットケーキを作ってくれた。小麦粉を水で溶き、重曹を加え膨らまし焙烙で焼いて砂糖醤油を塗って食べるのである。秋になるとその“たらし焼”の中にさつまいもが入り、蒸しパンのようなものを作ってくれた。それ以外に村祭りの時などは“酒饅頭”も良く作ってくれた。“酒饅頭”は蒸かす時、饅頭の下に饅頭の葉を敷く。母はその饅頭の葉を山から採って来るよう私に命じた。饅頭の葉とは蕨の一種で直径 7cm 程の丸い葉である。後に私はその饅頭の葉が“サンキライ”という植物であることを知った。



多摩第一小学校
第一分校
最後の卒業生
(昭和 39 年)
上段左から 2 人
目が筆者

ご馳走と言えば、お正月と村祭りとお盆など、中でもお正月は特別であった。普段何も無い村にとってお節料理は何よりもご馳走であった。とはいっても私にとって一番の楽しみはバナナが食べられた事である。今でこそ一房 100 円と格安なバナナが出回っているが、昭和 30 年代は高級果物で滅多に食べられなかった。

また、母は毎年、お正月になると靴と洋服を新調してくれた。新しい服で新年を迎えるためである。それがとても嬉しかった。年末には父が府中の大国魂神社の晦日市に行き、お正月に必要な物を買って来た。28 日になると家の中の土間に藁を敷き、その上に臼を載せ、蒸かした米をそれに入れ、父がペタンペタンと餅をつくと、母が臼の横に立ち餅を返す。父と母がリズムカルに餅をつく。今でもあの当時の事を思い出すと亡き父と母の楽しそうな顔が目に見え、懐かしさを覚える。つき上がるとおろし餅・黄粉餅・あんころ餅で食べる。とても美味しい。その後ついた餅でのし餅とお供えを作る。お飾りを飾ったり、お節料理を作ったりと年末は忙しいが、紅白歌合戦を見て、やがて待ちに待ったお正月を迎える。そして私は昭和 39 年に小学校を卒業、その年多摩村は多摩町となった。東京オリンピックが開かれた年でもある。(つづく)



ハッピーバースデイ



11 月誕生日を迎えられました!

左から村上伸茲・倉賀野武士・吉岡喜久恵
各会員



12 月誕生日を迎えられました!

青木ひとみ会員



編集後記



去年の大雪は例年より早く、天変地異が各地で起こりましたが、幸いなことに多摩ではさほどの害も無く、皆さまお揃いにてご越年なされたこととお慶び申し上げます。

今年の干支は乙未(きのとひつじ)で、未は味覚の味を意とし、果実の成熟が良い年と言われております。当クラブもますます熟成して大きな実りの有りますように、活潑発地して参りましょう。江戸時代の 1835 年には幕末の志士、土方歳三や三菱財閥を築き上げた岩崎弥太郎が誕生しているのにあやかり、我らの中からも志士の現れることを期待しましょう。

新年にあたり、広報としては「単なる報告の掲載に留まらず、雑学・知恵袋と幅広い記事を載せたら…」と考えております。つきましては、今後宜しくご助言賜りたくお願い申し上げます。会員各位、おめでとうございます。

(広報委員 阪東熙子記)



東京多摩プロバスソング



作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ